

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		1	地域活動・市民活動に関する理解促進				担当課		市民協働課			
基本施策		(1)	地域活動・市民活動に関する情報発信・共有									
取組名 No		1	多様な媒体や機会を通じた市民活動や市民協働等に関する情報発信									
P	取組内容		広報あんじょう、生涯学習情報誌「あんてな」などの冊子、SNS、市民活動情報サイトなどのウェブサイトを活用し、市民活動や市民協働に関する情報を発信します。また、多くの市民が集まるイベントなどを活用し、市民活動に関するPR等を行います。									
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		様々なツールに適した内容で情報発信をしていきます。									
D	年度		R6		R7		R8		R9		R10	
	実績／ 上段：例年実施していること		＜紙媒体＞ ・広報あんじょう：市民活動補助対象事業(4月号)、「市民参加と協働」特集ページ(8月号) ・チラシ・ポスター：各地区公民館等(次年度補助金事業の募集等ポスター、チラシ)、市民活動団体へ郵送(市民協働啓発チラシ、補助金事業案内同封) ・生涯学習情報誌「あんてな」：市民活動センターのイベント等を掲載 ＜SNS＞ ・交流センターInstagram：団体の活動・イベント紹介									
	下段：関連・新たな動きや成果		＜イベント＞ 啓発ブース設置 ・内容：景品を配布し協働を体感できるゲーム(福笑い)を実施 ・参加者数：アンフォーレ(七夕まつり)65人 市民交流センター(わくわくフェスティバル)86人 ＜SNS等＞ ・市公式LINE：次年度補助金事業の募集、イベント情報等を発信 成果：補助金の申請件数が増加(R6：8件→R7：12件) ・企画政策課「キョウソウマガジン」(メール配信)：あんじょう協働リビングラボや市民活動成果報告会を掲載									
C	施策の進捗度		A									
			事業は実施でき、課題が解決できた		達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要							
A	令和6年度	実績から見てきた課題	「市民協働」という言葉自体と意味の認知度が低いため、市民活動への参加意欲につながりません。									
		課題解決のために行う方策 (改善点)	興味を持ってもらえる内容を検討し、「市民協働」を体感してもらうことで認知度を高めていきます。									

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		1	地域活動・市民活動に関する理解促進				担当課	生涯学習課
基本施策		(1)	地域活動・市民活動に関する情報発信・共有					
取組名No		1	多様な媒体や機会を通じた市民活動や市民協働等に関する情報発信					
P	取組内容		広報あんじょう、生涯学習情報誌「あんでな」などの冊子、SNS、市民活動情報サイトなどのウェブサイトを活用し、市民活動や市民協働に関する情報を発信します。また、多くの市民が集まるイベントなどを活用し、市民活動に関するPR等を行います。					
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		・市内全戸に配布され、フルカラーで印刷する概要版の特性を生かし、講座名の工夫や写真の活用をし、受講者の集客に努めます。 ・詳細については市ホームページに誘導し、詳細を確認できるような情報誌の作成を実施します。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		生涯学習情報誌「あんでな」 ・年4回発行 概要版：広報あんじょうに折り込み、市内全戸配布 詳細版：地区公民館に冊子を配置、市ホームページに掲載 ・概要版は、フルカラーで見やすくA3表裏1枚にコンパクトに情報をまとめた。また、QRコードを併せて掲載することで、市ホームページへ誘導し、詳細な内容が確認できるようにした ・市民企画講座やものづくり講座、社会課題テーマ講座の情報を定期的に掲載					
C	施策の進捗度		A 取組内容は実施でき、課題が解決できた	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
	令和6年度	実績から見てきた課題	・概要版は紙面に限りがあり、掲載する講座の情報量が必要最低限になってしまうため、情報の整理が必要です。					
A		課題解決のために行う方策 (改善点)	・引き続き概要版を作成して市内全戸に配布し、受講者の集客に努めます。また、フルカラーでの印刷を生かした上で、講座名の工夫や写真の活用して、わかりやすい情報発信に努めます。 ・詳細な内容については市ホームページに誘導し、情報発信に努めます。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		1	地域活動・市民活動に関する理解促進			担当課	市民協働課
基本施策		(1)	地域活動・市民活動に関する情報発信・共有				
取組名 No		2	団体の情報発信の支援				
P	取組内容		団体がチラシやSNS等を通じて自分たちの活動を自ら発信できるように支援します。また、活動をマスコミに取り上げてもらえるようにするため、団体が自らマスコミへ情報発信できるよう支援します。				
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		引き続き、報道機関へ情報を提供し、団体が自身でも様々な方法でPRできるように支援していきます。				
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10
	実績／ 上段：例年実施していること		<支援業務> ・日頃から交流センタースタッフによる相談・情報発信支援を実施 <報道機関へ情報提供> ・愛知県から表彰されたボランティア団体（3団体）				
	下段：関連・新たな動きや成果		<支援業務> ・リニューアルした市民活動情報サイトの活用方法（団体のPR）の説明 <報道機関への情報提供> ・メディアに活動を取り上げてもらうため、市民活動補助金本審査の情報を提供				
C	施策の進捗度		A 事業は実施でき、課題が解決できた	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要			
	令和6年度	実績から見てきた課題	PRするためにはSNSでの発信が有効な手段の一つですが、デジタルに苦手意識をもっている団体が多いです。				
A		課題解決のために行う方策 （改善点）	引き続き、SNSでの発信方法などを気軽に相談できるような機会や環境を作り、団体をフォローしていきます。				

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		1	地域活動・市民活動に関する理解促進				担当課	社会福祉協議会
基本施策		(1)	地域活動・市民活動に関する情報発信・共有					
取組名No		3	ボランティア活動に関する情報発信					
P	取組内容		社協だよりや社会福祉協議会公式ウェブサイトなどを活用してボランティア活動に関する情報を発信します。					
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		幅広い世代に情報を届けるために、現行のSNSツールに加え、新たなSNSツールの活用も検討していきます。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 上段：例年実施していること		発信方法：ウェブサイト、メーリングリスト、LINE公式アカウント 内容：ボランティア講座やボランティア活動の様子 頻度：毎月					
D	下段：関連・新たな動きや成果		・課題：社協からボランティア団体や個人ボランティアへの一方的な情報発信だった ・実施内容：LINEの活用方法を拡大 ・実績：ボランティア団体や個人ボランティアとスムーズにLINEで相互にやりとりができる手段を整備。整備により、配信頻度をこれまでの月1回から、月1回以上配信できるよう拡充 ・展開：新たなSNSツールでの情報発信方法について近隣市町社協に視察に行き情報収集を行った					
	施策の進捗度		A 取組内容は実施でき、課題が解決できた	達成：施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
A	令和6年度	実績から見えてきた課題	公式LINEアカウントは以前から設置しているものの、フォロワー数は伸び悩んでいます。今年度整備したLINEの活用を、今後周知及び定着させることが必要です。ウェブサイトや公式LINE以外で若い世代に関心の高いSNSツールの活用の必要性があります。					
		課題解決のために 行う方策 (改善点)	引き続き、ウェブサイトや公式LINEアカウントの周知・定着を継続し、新たなSNSツールを活用準備を進め、ボランティア活動に関する様々な情報発信に努めます。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		1	地域活動・市民活動に関する理解促進		担当課		市民協働課	
基本施策		(2)	地域活動・市民活動に関する理解促進					
取組名No		1	市民活動事例や多様な主体による協働事例の発表会等の開催					
P	取組内容		市民活動や、地域団体、市民活動団体、事業者などの多様な主体による協働事例の発表会、意見交換会等を開催します。 また、より多くの人にみてもらえるように、発表内容を市公式ウェブサイト等で公開していきます。					
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		市民活動補助金交付団体以外の、協働の事例のある団体などにも広く参加を促します。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 上段：例年実施していること		市民活動補助金本審査（1月） ・協働事例・市民活動の発表 ・発表団体：5団体（市民提案型事業2団体、行政協働型事業1団体、協働提案型事業2団体）					
			市民活動成果報告会&あんじょう協働リビングラボ交流会（3月） ・内容：市民活動団体（市民活動補助金交付団体等）の発表及びあんじょう協働リビングラボの社会実験報告、市民活動補助金説明、交流会 ・参加者：補助金交付団体、補助金申請検討団体、リビングラボ参加者など					
C	施策の進捗度		A					
			事業は実施でき、課題が解決できた	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
	令和6年度	実績から見てきた課題	例年に比べて多様な参加者が集まったが、市民活動に興味がある方の参加に限定されています。					
課題解決のために行う方策（改善点）		市民活動に興味のない方にも参加してもらえる方法を検討します。						

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		1	地域活動・市民活動に関する理解促進				担当課	市民協働課
基本施策		(2)	地域活動・市民活動に関する理解促進					
取組名No		2	協働事例集・チラシの発行					
P	取組内容		市民協働に対する理解を深めてもらうため、団体同士や町内会と団体との身近な協働事例を小冊子（事例集）やチラシなどに整理し配布します。					
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		手に取りやすく、広く情報提供できる方法を検討します。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 上段：例年実施していること		<協働事例集「コネクトVol.3」> ・市民協働課主催のイベント、新人職員研修、青少年の家「ユースカレッジ」にて配布					
	下段：関連・新たな動きや成果		<チラシ> ・直近1年間の市民協働に関する取組みや市民協働とは何かを一枚のチラシにまとめ、補助金の案内に同封・イベント等で多くの方に配布					
C	施策の進捗度		A					
			事業は実施でき、課題が解決できた		達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要			
A	令和6年度	実績から見てきた課題	机に置いておいただけだと手を取る方はほとんどいないので、配布方法の検討が必要です。					
		課題解決のために 行う方策 (改善点)	引き続き誰でも参加しやすいイベントを実施し、その場で直接興味を持った方への配布をします。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		1	地域活動・市民活動に関する理解促進				担当課	市民協働課（地域振興係）
基本施策		(2)	地域活動・市民活動に関する理解促進					
取組名No		3	町内会に関する情報提供					
P	取組内容		町内会への理解促進や加入意義の周知のため、活動紹介など町内会に関する情報提供を行います。					
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		町内会に関わる人の声を載せ、町内会活動に参加して良かったことなどを掲載します。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 上段：例年実施していること		<広報あんじょう（5月号）> ・内容：特集で町内会活動の紹介を行い、町内会の副会長へのインタビューを掲載 ・効果：副会長のインタビューを掲載したことで、町内会活動にはさまざまな世代が関わっており、地域のつながりを築くために重要な役割を果たしていると周知することができた <チラシ> ・内容：町内会についての説明を掲載したチラシを作成。（宅建協会から会員事業者へ配付していただくほか、町内会・自治会に配付し、住民への案内に利用できるようにするもの） ・効果：町内会活動について知っていただくきっかけになった					
	下段：関連・新たな動きや成果							
C	施策の進捗度		A	達成：施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
	令和6年度	実績から見てきた課題	加入の意義について個別に問い合わせがあることも多いため、丁寧な説明が必要です。					
A	令和6年度	課題解決のために 行う方策 (改善点)	町内会の活動についてわかりやすい周知に努め、加入促進につながる情報提供を行います。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		2	市民協働の担い手づくり				担当課	市民協働課
基本施策		(1)	地域活動・市民活動への参加のきっかけづくり					
取組名No		1	市民協働等に関する情報発信や出前講座の実施					
P	取組内容		市民協働等に関する情報発信や出前講座を実施し、地域活動・市民活動への参加のきっかけづくりをします。					
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		市民協働に対する理解促進を図るために、ハードルを低くした内容での啓発を検討します。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 上段：例年実施していること		<講義> 青少年の家「ユースカレッジ」：市民参加と協働の講義を実施					
	下段：関連・新たな動きや成果		<チラシ> 直近1年間の市民協働に関する取組みや市民協働とは何かを一枚のチラシにまとめ、配布 <啓発ブース設置> ・内容：景品を配布し協働を体感できるゲーム（福笑い）を実施 ・参加者数：アンフォーレ（七夕まつり）65人 市民交流センター（わくわくフェスティバル）86人					
C	施策の進捗度		A					
			取組内容は実施でき、課題が解決できた	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
A	令和6年度	実績から見てきた課題	興味を持ってもらい、地域活動・市民活動への参加のきっかけへとつなげる方法が不足しています。					
		課題解決のために行う方策 (改善点)	「市民協働」という言葉のハードルを低くし、興味を持ってもらえる方法を検討します。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		2	市民協働の担い手づくり				担当課	市民協働課
基本施策		(1)	地域活動・市民活動への参加のきっかけづくり					
取組名 No		2	市民活動啓発イベントの開催					
P	取組内容		市民活動の紹介や意見交換など、市民活動の魅力を紹介し、参加を促すための啓発イベントを開催します。					
	課題解決のために行う 令和 6 年度の方策		イベントで多くの方に立ち止まってもらえる方法でPRをします。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 上段：例年実施していること <							

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

	基本方針	2	市民協働の担い手づくり			担当課	市民協働課
	基本施策	(1)	地域活動・市民活動への参加のきっかけづくり				
	取組名 No	3	子ども地域ボランティア活動の推進				
P	取組内容		地域団体等が主催するイベントや行事等の運営に、小学生や中学生がボランティアとして参加できる仕組みづくりを研究します。				
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		新規取組のため前年度に定めた方策はありません。				
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10
	実績／ 上段：例年実施していること		市民交流センター「夏休みこどもあそびひろば」 ・参加者：176名（うち54名は高校生・大学生のボランティア） ・学生ボランティアは団体に所属するというより単発や短期間のボランティアに参加しやすい傾向。市内地区公民館でも公民館まつりなどの当日ボランティアをやってもらうなどの事例があるよう				
	下段：関連・新たな動きや成果						
C	施策の進捗度		B 取組内容事業は実施できたが、効果がなかった	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、効果があった B：取組内容は実施できたが、効果がなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要			
	令和6年度	実績から見てきた課題	市内にどのような小・中学生も参加できる取組みがあるのか把握できていません。				
A		課題解決のために 行う方策 (改善点)	引き続き調査を続け、好事例の研究を行います。				

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		2	市民協働の担い手づくり			担当課	市民協働課（地域振興係）
基本施策		(1)	地域活動・市民活動への参加のきっかけづくり				
取組名No		4	被災地ボランティア活動に対する支援				
P	取組内容		災害の発生した地域で行う災害支援活動、復興支援活動及び被災地の復興につながる交流活動を支援します。				
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		制度の見直しも求められているため、制度を見直しつつ、広報あんじょうへの掲載を行います。				
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10
	実績／ 上段：例年実施していること		<被災地ボランティア活動給付金> 被災地ボランティア活動に対する支援に従事した市民に対して、活動に係る費用の一部を交付 事業の実施に当たっては、安城市社会福祉協議会に事務の一部を委託して実施 ・R6年度実績 延べ人数：58人、給付額合計：348,400円 ・周知 市役所及びアンフォーレのデジタルサイネージにて、災害ボランティアコーディネーター養成講座の受講者募集に併せて制度の支援を行った				
			<制度の見直し> 自動車の燃料価格高騰に伴い、自動車利用時の燃料代相当として給付していた交通費の見直し（1kmあたり10円から15円への増額）				
C	施策の進捗度		A				
			取組内容は実施でき、課題が解決できた	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要			
	令和6年度	実績から見てきた課題	同じ対象者に繰り返し給付しているケースが多いため、もっと幅広く利用してもらえるような周知が必要です。				
課題解決のために 行う方策 (改善点)		年度初めや大規模災害が発生したタイミングに、広報あんじょうや市公式SNSなどでの情報発信を行います。					
A							

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		2	市民協働の担い手づくり		担当課		社会福祉協議会	
基本施策		(1)	地域活動・市民活動への参加のきっかけづくり					
取組名No		5	ボランティア体験プログラムの開催					
P	取組内容		市内の地域福祉活動を知り、ボランティアを始める機会を提供するために、ボランティア体験プログラムを開催します。					
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		参加者の多い学校へはこちらから説明に向く機会を増やし、参加者が参加しやすい状況になるよう検討します。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 上段：例年実施していること		概要：市内の福祉施設の協力により、ボランティアをしてみたい方の第一歩を応援するプログラム 対象：市内在住または在学の中学生及び高校生、市内在住または在勤の16歳以上の方 実績： ・ボランティアの受け入れ申出施設：市内78施設 ・参加者数：198人 ・ボランティア受け入れ施設：59施設 工夫： ①実施時期：7月を含めた夏休み期間に実施 →8月のみ（部活動の大会など行事が重なることを避けるため） ②参加者が多い学校へは職員が出向きボランティア体験プログラム事前説明会を実施 ・結果：学生への事前説明がスムーズに実施できた					
	下段：関連・新たな動きや成果		<事業PR> 変更点：資料送付し代読で紹介を依頼 →校長会に出向き、事業の紹介 結果：学校からの事業への問い合わせなどが増加					
C	施策の進捗度		A					
			取組内容は実施でき、課題が解決できた	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
	令和6年度	実績から見てきた課題	学生や先生も学校行事等で忙しいため、職員が積極的に出向き、学生や先生の負担を軽減することが必要です。					
課題解決のために行う方策 (改善点)		今後も実施時期は8月とし、学校行事などの重なりを回避するとともに、事前説明会の学校開催を維持します。						
A								

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		2	市民協働の担い手づくり				担当課	市民協働課
基本施策		(2)	地域活動・市民活動への参加の担い手づくり					
取組名 No		1	市民活動入門講座の開催					
P	取組内容		市内で活動する市民活動団体の活動内容を紹介したり、活動を実際に体験したりする講座を開催します。					
	課題解決のために行う 令和 6 年度の方策		誰でも参加しやすい、興味を引く内容の講座を開催します。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 上段：例年実施していること		「わくわくサロン」（市民協働に興味のある方や、既に活動している団体を対象とした講座） ・ 6 つ開催（子どもの居場所ボランティア、子どもの権利、フードドライブなど） ・ 参加者：延べ205名					
	下段：関連・新たな動きや成果		ファシリテーションのスキルアップ講座の開催（場リスタ講座 はじめの一步～あなたも場づくりマスターに～）（R5～6） ・ 内容：市民活動をする上でだけでなく仕事やプライベートにも活かせるスキル講座 参加者：市民活動という言葉を前面に出さずに開催したため、年代・職業等多様な方が集まった 結果：「仕事で活かしたい」「市民活動を始めてみたい」という声があり大変好評だった					
C	施策の進捗度		A 取組内容は実施でき、課題が解決できた	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
	令和 6 年度	実績から見てきた課題	仕事にも活かせるスキルを学ぶ講座は良いが、市民活動入門講座の「担い手づくり」などという言葉は重く感じられのか、参加者が集まりにくいです。					
A		課題解決のために行う方策（改善点）	結果的に市民活動に参加したくなるような講座を検討します。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		2	市民協働の担い手づくり				担当課	生涯学習課
基本施策		(2)	地域活動・市民活動への参加の担い手づくり					
取組名 No		2	シルバーカレッジの開催					
P	取組内容		熟年世代を対象としたシルバーカレッジを開催し、講座修了者がボランティア活動や地域活動などの多様な活動へ主体的に参加できるよう支援します。					
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		引き続き毎年、新講師を数名選び、シルバーカレッジの学習内容を魅力あるものにし、市民の参加意欲を高めていきます。また、地域学校協働活動における地域人材発掘に向けて、コミュニティースクールに関する講座を実施します。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<シルバーカレッジ> ・参加者数：1年生32名、2年生19名 ・講座数：1年生24回、2年生23回 ・内容：シルバーカレッジのカリキュラムの中で「ボランティアへの誘い」という講座を市民団体に講師を依頼し、実施。参加者にボランティアへの関心を高めるよう引き続き努めた。シルバーカレッジレベルアップ講座を年3回開催 ・結果：学習意欲はとて高く、学生同士の仲間づくりも活発					
			<シルバーカレッジレベルアップ講座> 目的：地域学校協働活動における地域人材発掘 内容：安城市の教育の現状とこれからの取組についての講座（「これからどうする！安城市の教育～学校と地域社会～」）を開催 結果：地域と学校の連携やコミュニティ・スクールの意義について理解を深めた 参加者：シルバーカレッジ1年生・2年生・OB・OG					
C	施策の進捗度		A	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
	令和6年度	実績から見てきた課題	コロナ禍を経て、受講者の応募が低調です。					
		課題解決のために行う方策 (改善点)	引き続き毎年、新講師を数名選び、シルバーカレッジの学習内容を魅力あるものにし、市民の参加意欲を高めていきます。また、地域活動など多様な活動へ主体的に参加することへの関心を高めるよう講座を実施します。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		2	市民協働の担い手づくり				担当課	社会福祉協議会
基本施策		(2)	地域活動・市民活動への参加の担い手づくり					
取組名 No		3	ボランティア入門講座の開催					
P	取組内容		ボランティア入門講座や手話講座など、新たにボランティア活動を行う人材を育てる講座を開催します。					
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		学生などの若い世代や現役世代にも興味を持ってもらえるように、PR方法を検討します。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 上段：例年実施していること	<講座の開催> ・対象：新たにボランティア活動を検討している人 ・内容：手話、災害ボランティアコーディネーター等 ・結果：以前から関心が高い講座だったため、満席での開催 <ボランティアマッチングイベント> ・目的：ボランティアに興味がある人とボランティア団体の出会いと交流（R5から開催） ・参加者：24団体（80人）、来場者50人（計約130人） ・工夫：R5年度は社会福祉会館の2階と3階で実施、R6年度は総合福祉センター多目的ホールに変更し、会場全体が見渡せて、来場者が団体ブースを回りやすいように会場配置 ・結果：参加団体同士が互いの活動内容を体験することで活動者同士の交流機会となり、つながりの場として有益だった						
		<新たなPR方法> ・目的：LINEを活用したボランティアとの連絡手段の構築 ・内容：若い世代や高齢世代はメールを使っていなかったり、メールを使ってもすぐに開かないなど情報がいきなりにくい状況がある。LINEを活用することで、どの世代の個人ボランティアとも連絡を取りやすくしたり、個人ボランティアが受け取った情報を確認しやすくなることを目指す ・実績：LINE活用を先進的に行っている他市社協へ視察し、連絡手段の構築に向けた準備を行った						
	下段：関連・新たな動きや成果							
C	施策の進捗度		A	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
	令和6年度	実績から見えてきた課題	マッチングイベントは、市内中学校以上の学校や公共施設でのチラシ配置、ウェブサイトや社協だより、公式LINEでの周知に努めましたが、一般来場者数は昨年度とほぼ同数で大きな増加は見られませんでした。					
	A	課題解決のために行う方策 （改善点）	引き続き、新たにボランティアを始めたい人に関心を寄せてもらえるような講座内容の工夫を行い、講座の実施に努めます。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		2	市民協働の担い手づくり				担当課	市民協働課
基本施策		(3)	市民協働に対する市職員の理解・参加促進					
取組名No		1	職員向け市民協働研修の実施					
P	取組内容		地域活動・市民活動や市民協働に関する理解と参加を促すため、市職員に必要とされる考え方や姿勢などを学ぶ研修会を開催します。 また、研修に適したハンドブックなどを作成します。					
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		引き続き研修を実施し、職員の理解を深めます。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 上段：例年実施していること		計画策定の際に実施したまちづくりフォーラムの動画視聴 ・参加者：37名 ・結果：市民協働とは関係ないと思っていた部署の方からも、自分の部署でできることはないか考えるきっかけとなったとの意見があった。また、職員研修を動画視聴にすることで、都合の良い時間に見ることができ好評だった					
D	下段：関連・新たな動きや成果		市民協働推進計画の施策実施状況調査シート書き方説明会 ・対象者：取組実施担当者 ・内容：計画の重要ポイントを直接説明をし、シートに記載する際、良いことだけではなく、上手くいかなかったことや関連すること、新たな取組みまでは幅広く記載することを直接依頼					
	施策の進捗度		B 取組内容は実施できたが課題が解決できなかった	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
A	令和6年度	実績から見えてきた課題	市民協働の手法を学ぶための研修が必要です。					
		課題解決のために行う方策 (改善点)	モデルとなる好事例を基に具体的な手法を知るための研修を検討します。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		2	市民協働の担い手づくり				担当課	市民協働課
基本施策		(3)	市民協働に対する市職員の理解・参加促進					
取組名 No		2	職員の地域活動・市民活動への自主的・主体的参加の推進					
P	取組内容		職員向けに、地域活動・市民活動に関する情報を定期的・継続的に提供し、自主的・主体的参加を促します。 また、ボランティア休暇等の利用促進を働きかけていきます。					
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		多様な事例を積極的に情報提供していきます。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 上段：例年実施していること		・市民活動センター情報誌「ぼらりん」や講座の案内 ・市民活動補助金の募集を掲載するなどして市職員への情報提供					
	下段：関連・新たな動きや成果		・県主催の研修「参加to実践研修の周知」「NPOと行政のテーマ別意見交換会」の周知 ・社会福祉協議会主催の「ボラマッチ」の案内掲載 ・アジア競技大会のボランティア募集を周知					
C	施策の進捗度		A					
			取組内容は実施でき、課題が解決できた	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
A	令和6年度	実績から見えてきた課題	情報提供の結果が見えないため、より効果的な提供方法が検討できません。					
		課題解決のために行う方策 (改善点)	ボランティアに参加した職員の実態を把握し、効果的な情報の提供方法を検討します。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実				担当課	市民協働課
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実					
取組名 No		1	ふれあい補償制度の運用					
P	取組内容		地域活動や市民活動に対して、怪我や賠償責任を補償する制度を運用します。					
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		引き続き、広報やチラシ、ポスター等で周知を行います。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 上段：例年実施していること	<周知方法> ・チラシ配布：安城市民交流センター、安城市社会福祉協議会ボランティアセンター、安城市子ども会育成連絡協議会等 ・広報4月号への掲載 ・市公式ウェブサイトへの掲載周知 ・全町内会長へ配布する町内会長ノートに掲載						
		<実績> R6.4.1～R7.3.31の申請受付件数：20件 <補償制度の説明> ・「子ども食堂運営者との情報交換会」（子育て支援課主催）にて、補償の対象可否の事例や社協が扱うボランティア保険との違いなど、具体的に説明することができ団体の制度に対する理解が深まった						
		下段：関連・新たな動きや成果						
C	施策の進捗度		A					
			取組内容は実施でき、課題が解決できた		達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要			
A	令和6年度	実績から見てきた課題	安心して地域活動や市民活動を行うことができるよう、補償制度の周知が必要です。					
		課題解決のために 行う方策 (改善点)	引き続き、広報やチラシ、市公式ウェブササイト等で周知を行うほか、必要に応じて保障制度の説明ができる体制を整えます。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課		市民協働課	
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実				
取組名 No		2	市民活動センターの相談・コーディネート機能の充実と利活用促進				
P	取組内容		市民や市民活動団体等の「やりたい・やるべき」という想いを実現するため、市民活動センターの相談・コーディネート機能の向上とスタッフのスキルアップを図ります。 また、利用者の声を市民活動センターの運営に反映し、市民活動団体等にとって利活用しやすい施設運営を進めます。				
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		引き続きアンケート結果や利用者の声を積極的に拾い上げ、利用の促進を図ります。				
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10
	実績／ 上段：例年実施していること		<利用者アンケート> ・要望を確認し、スタッフの創意工夫で改善・対応 <SNS> ・WebやSNSを活用して施設の利用方法を紹介するなどして施設の利用を促すことができた <伴走支援> ・市民活動補助金申請団体へ申請書の書き方やプレゼンテーションの準備、事業実施・啓発など多岐にわたる支援を実施 相談件数：332件 マッチング件数：58件				
C	下段：関連・新たな動きや成果						
	施策の進捗度		A 取組内容は実施でき、課題が解決できた	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要			
A	令和6年度	実績から見てきた課題	利用者・相談件数・マッチング件数が伸び悩んでいます。				
		課題解決のために 行う方策 (改善点)	支援の周知や施設のPRを積極的に行い、ニーズに応じていきます。				

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実			担当課	市民協働課
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実				
取組名 No		3	支援拠点施設同士の連携強化				
P	取組内容		市民活動の支援拠点施設同士が、市民活動に関する情報を共有し、それぞれの活動に役立てるため連携していきます。				
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		制度に関する理解を深め、適切な案内や連携ができるように情報の共有を図ります。				
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10
	実績／ 上段：例年実施していること		担当者会議：2回開催 ・出席者：各支援拠点の担当者（社会福祉協議会ボランティアセンター、青少年の家ボランティア活動センター、生涯学習ボランティアセンター、市民活動センター） ・それぞれの事業内容等の情報共有や改めて組織の役割分担について確認				
D	下段：関連・新たな動きや成果		市民活動団体向けの補助金まとめを作成 ・その団体に適した補助金の案内ができるように情報共有することができた				
	施策の進捗度		A 取組内容は実施でき、課題が解決できた	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要			
A	令和6年度	実績から見えてきた課題	ボランティアや市民活動に関連するイベントへの参加者が増加しません。				
		課題解決のために行う方策 (改善点)	事業実施する上で上手くいった方法などの情報共有を引き続き行い、ボランティア・市民活動への参加者数の底上げを目指します。				

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実			担当課		生涯学習課	
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実						
取組名 No		4	生涯学習ボランティアセンター・青少年ボランティア活動支援センターの運営						
P	取組内容		ボランティア活動を通じた生涯学習の充実のため、生涯学習ボランティアセンター・青少年ボランティア活動支援センターを通じて市民のボランティア活動や団体活動を支援します。						
	課題解決のために行う 令和 6 年度の方策		支援の周知を積極的に行い、ニーズに応じていきます。						
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10		
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<生涯学習ボランティアセンター> 登録団体に、会議や打ち合わせなどの活動場所として部屋が利用できるようにした。また、中間支援組織ボランティア支援担当者に職員が出席し、関係機関との情報共有や意見交換を実施 <青少年ボランティア活動センター> 地域子ども会のイベント企画について相談を受け、登録ボランティアの紹介や派遣依頼等実施						
			<青少年ボランティア活動センター> ・状況：令和6年度事務事業総点検にて廃止という評価 ・理由：登録・派遣業務や登録者が、市民交流センターや社会福祉協議会のボランティアセンターと重複しているため ・今後：子ども会活動のコーディネートにおいて、市民活動センター等ほかのボランティアセンターを活用する場合の方法等を検討						
C	施策の進捗度		A 取組内容は実施でき、課題が解決できた	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
	令和 6 年度	実績から見えてきた課題	・生涯学習ボランティアセンター登録団体が活動に関する印刷を行う場合に、印刷機とコピー機の使用ルールがわかりにくいとの意見があった。 ・他機関のボランティアセンターを活用した、子ども会活動のコーディネート方法について検討します。						
	A	課題解決のために行う方策 (改善点)	・生涯学習ボランティアセンター登録団体へ部屋利用のルールを案内する際、印刷機とコピー機の使用ルールについても周知します。 ・市民活動センター、社会福祉協議会等のボランティアセンター登録者を確認し、これまでのコーディネート例と合致するかを検証します。						

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実			担当課	アンフォーレ課
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実				
取組名 No		5	アンフォーレの運営				
P	取組内容		情報発信、市民の学び・健康づくり及び多様な交流と活動を促進する拠点施設として、アンフォーレの利活用促進のための運営を行います。				
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		今後も人材の育成を図るためのボランティア養成講座やスキルアップ講座などを継続して実施していきます。				
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<ボランティア養成講座の実施> 目的：既存の読み聞かせボランティアの会員補充 実績：受講生13名のうち6名が5グループへ加入 <スキルアップ講座の実施> 目的：図書館登録読み聞かせボランティアのスキルアップ 実績：参加者18名 子どもの発達に関する知識と選書スキルを身につけることができた <ボランティア読書会の実施> 目的：読書会を通じた図書館登録読み聞かせボランティアの交流 実績：10回開催し、各回8名程度の参加				
C	施策の進捗度		A	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要			
	令和6 年度	実績から見えてきた課題	ボランティア養成講座の実施により、毎年修了生をグループ加入につなげていますが、会員の高齢化は激しく、活動に限界があります。				
		課題解決のために 行う方策 (改善点)	今後も人材の育成を図るボランティア養成講座やスキルアップ講座などを継続して実施していきます。				

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実				担当課	生涯学習課
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実					
取組名No		6	地区公民館の運営					
P	取組内容		学習機会や交流の場であるとともに、地域に軸足を置いた地域のまちづくり・ひとづくりの拠点施設として機能するよう、公民館講座を実施して新規自主グループを育成するなど、地区公民館の運営を行います。					
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		・個別施設計画が計画どおり着実に遂行できるためには、予算と紐づいた計画の見直しが必要です。 ・新規自主グループの組織化、自主グループの紹介などにより活動を支援します。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<保全改修工事> ・内容：施設保全計画に基づき、中部公民館、二本木公民館の保全改修工事を実施 ・結果：施設の長寿命化を図ることができている ・計画に基づき予算の執行、改修工事ができており、計画の見直しは必要なかった <活動支援> ・自主グループの組織化の促進及びメンバーの減少抑止のため、市内で活動する自主グループを冊子にまとめて各公民館の設置するほか、自主グループ主催講座を開催（23グループが実施・参加者数88人）					
C	施策の進捗度		A 取組内容は実施でき、課題が解決できた	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
	令和6年度	実績から見えてきた課題	・予算等の関係から、保全計画が個別施設計画の計画どおりに実行できない場合がある。 ・コロナ禍を経て自主グループ活動を休止、縮小している団体がある。					
A	令和6年度	課題解決のために 行う方策 (改善点)	・個別施設計画を計画どおり着実に遂行するため、予算に紐づいた計画の見直しをしていきます。 ・継続的に自主グループの活動を紹介することや自主グループ主催の講座を開催することにより、自主グループの組織化の促進及び継続的な活動を支援します。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実			担当課	社会福祉協議会
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実				
取組名 No		7	ボランティア保険の周知と加入促進				
P	取組内容		安心してボランティア活動に取り組めるよう、ボランティア保険の周知と加入促進を行います。				
	課題解決のために行う令和6年度の方策		新規取組のため前年度に定めた方策はありません。				
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10
	実績／ 上段：例年実施していること		<ボランティア活動保険> 実施内容： ・年間を通じて、ボランティア活動保険の加入受付を実施 ・社協ウェブサイトやボランティアセンター公式LINE、窓口での相談時に随時案内 結果： ①令和6年能登半島地震の被災地で災害ボランティア活動を行う個人ボランティアが増加 ②保険加入者数も増加。R6年度加入者数：1,871人（前年度から169人増加） ③保険請求：R5年2件→R6年4件 <行事用保険>（地域福祉活動やボランティア活動に関わる行事に活用できる） 実施内容：電話や窓口で紹介し、加入受付 結果 ①R6年度加入件数：60件（前年度から4件増加） ②保険請求：R5年1件→R6年0件 <移動支援活動保険> 実施内容：新たに移動支援活動を始めようとする団体に対して、移動支援活動の保険手続（愛知県社協）の相談を実施				
	下段：関連・新たな動きや成果						
C	施策の進捗度		A				
			取組内容は実施でき、効果があった	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、成果があった B：取組内容は実施できたが、効果がなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要			
A	令和6年度	実績から見えてきた課題	令和6年能登半島地震の影響で災害ボランティア活動に参加する活動者の加入が増加しました。災害が発生すると、活動者が増加することが顕著に数字に反映されました。				
		課題解決のために行う方策（改善点）	引き続き、加入案内を行い、活動者が安全・安心に活動ができるよう支援を継続します。				

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実				担当課	社会福祉協議会
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実					
取組名 No		8	福祉センターの運営					
P	取組内容		地域福祉活動を行う拠点施設としての役割を発揮させるため、福祉センターの管理運営を行います。					
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		社協だよりや社協公式ウェブサイト等で継続的にPRします。また、講座やサロンに参加したくなるような内容を取り入れ、利用者が気軽に相談できるような福祉センターの運営に努めます。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 上段：例年実施していること		<管理運営>（市内7か所の福祉センター） 社協だよりには、毎年福祉センターに関する記事を掲載しPRを行った <相談窓口>地域福祉の拠点として身近な福祉の相談窓口となるよう、センター利用者への積極的な声かけに努めた <主催事業>（市内8か所の福祉センター） ・内容：介護予防のための運動系の講座やサロン、絵画や書道などの文科系の講座やサロンを開催した					
	下段：関連・新たな動きや成果		新型コロナウイルス感染症のため、外出を控えていた高齢者や障がい者も外出や社会参加を再開し、参加者が増加した					
C	施策の進捗度		A 取組内容は実施でき、課題が解決できた	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
	令和6年度	実績から見てきた課題	身近な相談窓口となるよう積極的な声かけに努めたものの、職員の経験により差ができてしまっています。また、相談の記録を残す方法が定着していません。					
	A	課題解決のために行う方策 (改善点)	同じ業務を担うセンター担当者会を定期的に開催し、職員同士で相談できる場を設けます。また、相談記録書の様式を統一し、窓口での相談記録を整理して残すようにします。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実			担当課	社会福祉協議会
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実				
取組名No		9	社会福祉協議会ボランティアセンターにおける相談・コーディネート機能の充実				
P	取組内容		社会福祉協議会ボランティアセンターなどにおいて、ボランティア活動に関する相談を受け付けます。また、ボランティア活動をしたい人と、ボランティアを必要とする人や団体、福祉施設とのコーディネートをしします。ボランティアコーディネーターとしてのスキルアップを図ります。				
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		個人・団体ボランティアが活躍できる機会・場づくりを検討します。				
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10
	実績／ 上段：例年実施していること		<福祉施設ボランティア受入担当者会議> ・参加：39施設 ・内容：ボランティアセンターの相談機能の紹介や、現在のボランティア受入れ状況について情報交換 ・成果：コロナ禍を経て、ボランティアの受入れを再開したいと考える福祉施設の要望を確認でき、実際にボランティア派遣依頼や相談が増加。ボランティアが福祉施設で活動を行った <生活支援ネットワーク会議>（地区社協・生活支援コーディネーター主催） ・内容：地域課題やボランティアニーズの把握・ボランティアセンターの周知 ・成果：ボランティア依頼につながり、ボランティアが福祉施設や地域で活動を行った <中間支援組織会議> ・参加者：市民協働課、ボランティアセンター、市民活動センター、生涯学習課、青少年の家 ・市民活動、ボランティア活動推進のための情報・課題共有を実施 〈ボランティアコーディネーターのスキルアップ〉 ・愛知県ボランティアコーディネーター養成講座の受講 ・災害ボランティアセンター運営に係る講演会や研修に参加				
C	下段：関連・新たな動きや成果		ボランティア団体の紹介 現状：団体名と活動概要を掲載した紙面を作成し、ウェブサイトで掲載、窓口で配布 改善：ウェブサイトやSNSを活用した情報発信に着手				
	施策の進捗度		A				
A	令和6年度		取組内容は実施でき、課題が解決できた				
	実績から見えてきた課題		SNSなど情報発信ツールの活用が進んでおらず、ボランティア団体の活動状況が見えにくいです。				
A	課題解決のために 行う方策 (改善点)		SNSなどの情報発信ツールを活用して、ボランティア団体の活動写真や動画を掲載し、活動状況を見える化していきます。				

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実				担当課	市民協働課
基本施策		(2)	地域課題解決につながる地域活動・市民活動の支援					
取組名 No		1	団体同士がつながる交流会の開催					
P	取組内容		地域団体や市民活動団体、事業者などがそれぞれの活動を理解し、それぞれが顔見知りとなることで、新たな協働を生み出すことを目的とした交流会を開催します。					
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		交流会の良さを伝えることで幅広く参加を呼びかけ、多様な交流が生まれる場になるよう努めます。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 上段：例年実施していること		<交流会> ・内容：市民交流センターまつり「わくわくフェスティバル」の後に実施 ・結果：団体同士のマッチング（27件） その後のイベント実施（5件）					
			あんじょう協働リビングラボ交流会 ・開催経緯：市民活動成果報告会の発表団体が少なかったこともあり、あんじょう協働リビングラボの過去参加者にも周知して、市民活動成果報告会と同日に交流会を開催 ・結果：市民活動成果報告会には補助金活用団体以外の方の参加も多くあった。安城をより良くしたいという思いの方が集まり、「新しい出会いがあった」など刺激を受けた方も多くいた					
C	施策の進捗度		A 取組内容は実施でき、課題が解決できた	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
	令和6年度	実績から見てきた課題	寄附してくださった企業やSDGs共創パートナーなどの事業者の参加を促すことが難しさを感じます。					
		課題解決のために行う方策 (改善点)	事業者にとって社会貢献がイメージアップにつながるというメリットとなることをPRし、参加を促します。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実				担当課		市民協働課(地域振興係)	
基本施策		(2)	地域課題解決につながる地域活動・市民活動の支援							
取組名 No		2	町内会同士の課題や情報共有、交流の促進							
P	取組内容		町内会長同士が意見や情報を交換する場を設け、各町内会で抱える課題や運営・活動ノウハウの共有を図ります。							
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		新規取組のため前年度に定めた方策はありません。							
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10			
	実績／ 上段：例年実施していること		意見交換会(7月)、砺波市・加賀市への視察研修会(11月)を実施。 町内会長同士の意見・情報交換の場とすることができた。 <R6年度実績> 意見交換会出席人数：51人 視察研修会出席人数：29人							
	下段：関連・新たな動きや成果									
C	施策の進捗度		A	達成：施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、成果があった B：取組内容は実施できたが、効果がなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要						
	令和6年度	実績から見てきた課題	町内会長の交代頻度は町内会によって異なり、毎年交代する場合もあるので、毎年継続して情報交換の場を設定する必要があります。							
A	令和6年度	課題解決のために 行う方策 (改善点)	引き続き意見交換会を年間事業の一つとして実施するほか、町内会の運営・活動に役立つ情報交換ができる研修会などの実施に努めます。 また、実施にあたっては参加する町内会にかかる負担を考慮し、効率的な開催に努めます。							

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実		担当課	生涯学習課	
基本施策		(2)	地域課題解決につながる地域活動・市民活動の支援				
取組名No		3	市民企画講座の充実				
P	取組内容		現代的な課題の解決に向けて、学びたいことや取り組んでみたいことを市民活動団体自らが企画・運営する市民企画講座の充実を図ります。				
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		市民団体が集まる市民交流センター、公民館で市民企画講座の周知・募集を行います。				
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10
	実績／ 関連・新たな動きや成果		講座開催数：上半期に4講座、下半期4講座 参加者数：計152名 周知・募集方法：生涯学習情報誌「あてな」や市ホームページに掲載し、チラシを各公民館や市民交流センターほか各福祉センターやアンフォーレ等に設置して講座企画の募集を実施				
C	施策の進捗度		A				
			取組内容は実施でき、課題が解決できた	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要			
A	令和6年度	実績から見えてきた課題	講座を企画・運営する市民団体がコロナ禍の影響で活動が停滞してしまい、講座企画団体が減少傾向にあります。				
		課題解決のために行う方策 (改善点)	引き続き市民団体が集まる市民交流センター、公民館で市民企画講座の周知・募集を行います。				

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実				担当課	社会福祉協議会
基本施策		(2)	地域課題解決につながる地域活動・市民活動の支援					
取組名 No		4	町内福祉委員会研修会の開催					
P	取組内容		町内福祉委員会の活動を活性化し、委員の意識と知識を向上させるために、町内福祉委員会全体研修会などの研修会を開催します。					
	課題解決のために行う 令和 6 年度の方策		現在の活動の状況や活動者が課題と捉えていることの把握に努め、研修内容を検討します。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 上段：例年実施していること		町内福祉委員会全体研修会 参加者：205人 内容： ・町内福祉委員会の活動発表（高棚町福祉委員会、コープ野村新安城福祉委員会） ・日本福祉大学中央福祉専門学校校長の長岩嘉文氏による見守り活動をテーマとした講演及び活動報告に対するコメント					
		下段：関連・新たな動きや成果						
C	施策の進捗度		A	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
	令和 6 年度	実績から見てきた課題	町内福祉委員会活動を継続するためには、活動する者が必要とする情報を市社協及び地区社協が提供し続ける必要があります。					
A		課題解決のために行う方策 (改善点)	活動の状況や活動する者が課題と捉えていることの把握に努め、効果的な研修会の内容を検討します。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実				担当課	社会福祉協議会
基本施策		(2)	地域課題解決につながる地域活動・市民活動の支援					
取組名 No		5	地域福祉活動を推進するための研修会の開催					
P	取組内容		地区社協主催の地域福祉活動勉強会や防災・福祉の研修会、ハートフルケアセミナーなど、地域生活に密着した講習会を実施し、個別テーマごとの実践者の育成を行うとともに、他地域の先進的な活動事例などを紹介し、活動のヒントを得られるような研修会を開催します。					
	課題解決のために行う 令和 6 年度の方策		引き続き勉強会や生活支援ネットワーク会議を積み重ねることで活動の展開について地域住民とともに検討していきます。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 上段：例年実施していること		<地域福祉活動勉強会> 地区社協主催で中学校区単位で開催 <生活支援コーディネーターによる生活支援ネットワーク会議> 地域が抱える課題や活動について協議					
	下段：関連・新たな動きや成果		<地域福祉活動者勉強会> 参加者：167人 目的：災害現場に関わった方の声からこれからの自分たちにできることを考える 内容：「過去の災害の教訓から学ぶこと」 静岡県富士市社会福祉協議会（水害の事例）、東日本大震災や令和 6 年能登半島地震の支援を行った方（地震の事例）の講演					
C	施策の進捗度		A 取組内容は実施でき、課題が解決できた	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
	令和 6 年度	実績から見えてきた課題	ワークショップ等を通じて住民の地域課題を把握したが、今後どのように活動を展開していくかが課題となります。					
		課題解決のために 行う方策 (改善点)	新たな活動に結びつくよう、引き続き、勉強会や生活支援ネットワーク会議を開催します。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実			担当課	社会福祉協議会
基本施策		(2)	地域課題解決につながる地域活動・市民活動の支援				
取組名 No		6	生活支援ネットワーク会議の開催				
P	取組内容		市民・事業者・専門職等の様々な主体と協力しながら、地域の高齢者をはじめとする住民が安心して暮らしていける仕組みづくりを進めるため、地区社協単位で生活支援ネットワーク会議を開催します。				
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		活動者が必要とするテーマの把握に努めるとともに、新たな活動創出につながるよう、情報交換会の内容を検討します。				
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10
	実績／ 上段：例年実施していること		<生活支援ネットワーク会議> 内容：日頃から活動者と連携や協働する中で把握した地域課題ごとに生活支援ネットワーク会議を開催し、参加した活動者で情報交換、活動創出を検討 ・会議回数：34回（8地区の合計） ・参加延べ人数：805人 ・テーマ把握から活動創出の例： 認知症について広く知ってもらう必要がある→認知症啓発イベント（おれんじフェスタ2024）への協力など				
	下段：関連・新たな動きや成果						
C	施策の進捗度		A				
			取組内容は実施でき、課題が解決できた	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要			
A	令和6年度	実績から見てきた課題	情報交換はできたが、新たな活動創出には至っていません。				
		課題解決のために行う方策 (改善点)	活動者が必要とする情報交換の場づくりを継続するとともに、新たな活動の創出ができるよう、福祉事業所をはじめとする関係機関との連携を図ります。				

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		4	資金・組織体制の充実支援			担当課	市民協働課
基本施策		(1)	補助金など活動資金面の支援				
取組名No		1	市民活動補助制度の運用				
P	取組内容		「市民協働推進基金」を財源とする市民活動補助制度を運用し、地域が抱える諸課題を解決するための市民活動を支援します。 また、時代ニーズに合った制度として機能するよう、適宜制度のバージョンアップを研究・検討します。				
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		申請団体にとって利用しやすい方法を検討します。				
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10
	実績／ 上段：例年実施していること						
D	下段：関連・新たな動きや成果		補助金のバージョンアップ ・課題：申請期間2か月間（9・10月）で、事業実施まで半年以上間が空いてしまう ・改善：思い立った時にすぐに申請したいというニーズに応えるため、2次募集を開始 ・周知：チラシや広報あじょう、LINE配信、補助金説明会などを実施 ・申請件数：7件 補助金募集要項の工夫 ・補助金活用事例の発表動画をみることができる二次元コードを掲載 ・実際に補助金を活用した団体の生の声を聞くことができ、補助金を申請するハードルを少し低くすることができた 市公式LINEでの補助金募集周知 ・これまで情報が届かなかった方の目に留まる機会が増えた ・申請件数も増加（R6：8件→R7：12件）				
	施策の進捗度		A 取組内容は実施でき、課題が解決できた	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要			
A	令和6年度	実績から見えてきた課題	補助金額の上限を上げたほうが良いという意見もある中で、安城市に適した方法を検討する必要があります。				
		課題解決のために 行う方策 (改善点)	他市の制度の研究をし、安城市にあった方法を検討します。				

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		4	資金・組織体制の充実支援			担当課	市民協働課
基本施策		(1)	補助金など活動資金面の支援				
取組名 No		2	市民協働推進基金の運用				
P	取組内容		市民協働によるまちづくりを財政面から支援する「市民協働推進基金」を運用するために、市民に向けた啓発を行います。 また、基金を有効活用します。				
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		PRの場を積極的に活用し、多くの人の目に留まるようにします。				
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10
	実績／ 上段：例年実施していること		・基金への寄附について広報へ掲載 ・チラシやポスターの設置 ・市民協働課のイベント時にPR				
	下段：関連・新たな動きや成果		＜チラシ＞ 寄附いただいた基金がどのように活用されているかをまとめ、配布 ＜イベント＞ 内容：協働を体感できるゲーム（福笑い）を実施 結果：直接補助対象事業の説明及び寄附を呼びかけることができた				
C	施策の進捗度		A 取組内容は実施でき、課題が解決できた	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要			
	令和6年度	実績から見てきた課題	基金へ寄附してくださる企業が固定化しています。				
A	令和6年度	課題解決のために行う方策（改善点）	企業の社会貢献が注目されている中で、企業へ「寄附の制度」の周知する方法を検討します。				

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		4	資金・組織体制の充実支援				担当課	市民協働課（地域振興係）
基本施策		(1)	補助金など活動資金面の支援					
取組名No		3	町内会補助制度の運用					
P	取組内容		地域団体等の活動の場である、町内公民館の施設整備のための補助制度を運用します。 また、地域の連帯感の醸成や良好なコミュニケーションの形成を図るための町内会活動に対し補助制度を運用します。					
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		新規取組のため前年度に定めた方策はありません。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 上段：例年実施していること		・町内公民館の改修・借地等に係る費用の一部を町内公民館建設費等補助金として、町内公民館に設置するAEDの新設・更新に係る費用の一部をAED設置費補助金として交付 ・町内会活動に係る費用に充てられるものとして、町内会活動事業補助金を交付 <R6年度実績> ・町内公民館建設費等補助金（改修）33件、補助総額：14,624千円 ・町内公民館建設費等補助金（借地）9町内会、補助総額：4,674千円 ・AED設置費補助金 5件、補助総額：1,096千円 ・町内会活動事業補助金 全81町内会、補助総額：120,676千円					
	下段：関連・新たな動きや成果							
C	施策の進捗度		A					
			取組内容は実施でき、成果があった		達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、成果があった B：取組内容は実施できたが、効果がなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要			
A	令和6年度	実績から見てきた課題	町内会が計画的に町内公民館等を整備できるよう、補助金制度について情報提供する必要があります。					
		課題解決のために 行う方策 (改善点)	各補助金の制度について、町内会長連絡協議会の際に町内会ノートとして配付・案内します。 また、R6年度から新たに実施した町内会長研修（主な対象：新しく町内会長となった人）における補助金制度の説明を継続して行います。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		4	資金・組織体制の充実支援			担当課	市民協働課
基本施策		(1)	補助金など活動資金面の支援				
取組名 No		4	民間助成制度に関する情報提供の実施				
P	取組内容		民間で行われている助成制度の情報を定期的に収集し、市民活動情報サイトやSNS、市民交流センター館内掲示などの方法を使って積極的に配信するとともに、相談支援を行います。				
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		引き続き、支援金や助成金等の情報を収集し、団体への情報提供や必要とする団体への相談支援等を実施していきます。				
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10
	実績／ 上段：例年実施していること		<情報提供> 市民活動情報サイト、SNS、館内掲示等 <相談支援> 市民活動団体の活動内容や団体のニーズに合った助成金を紹介				
			「補助金・助成金・クラウドファンディング活用説明会」の開催 ・市民活動補助金に限らず、様々な制度を紹介 ・市民活動補助金を活用し、現在はクラウドファンディングで資金を集めて自立自走している団体の発表の場を設けた				
C	施策の進捗度		A				
			取組内容は実施でき、課題が解決できた 達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
A	令和6年度	実績から見てきた課題	補助金の説明会を実施しても、補助金の申請に対してハードルを高く感じているのか、資金面での課題があるという団体の参加がありません。				
		課題解決のために 行う方策 (改善点)	申請書の記入支援など、市民活動センターでのサポート内容をPRします。				

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		4	資金・組織体制の充実支援				担当課	社会福祉協議会
基本施策		(1)	補助金など活動資金面の支援					
取組名No		5	地域福祉活動に関する助成制度の運用					
P	取組内容		町内福祉委員会による地域福祉活動を支援するため、助成を行います。 また、助成申請にあたっての相談や申請書類作成にあたってのサポートを行います。					
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		新たな補助事業を含め、各助成事業が適切に活用されているか、助成した活動の状況を注視していきます。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 上段：例年実施していること		町内福祉委員会活動への資金助成について現行の助成事業を継続 1 地域見守り活動推進事業 要支援者を地域で見守り、支える体制づくりを進めるため助成 実績：76町内福祉委員会 金額：2,280,000円（3万円／地区） 2 町内福祉委員会活動推進特別事業 地域住民が主体となる先駆的な福祉活動を推進するため、生活支援活動やサロン活動に対し補助 実績：60町内福祉委員会 金額：1,800,000円（上限3万円）					
	下段：関連・新たな動きや成果		「子ども・子育てサロン補助金」（子どもや子育てを支援する取組）を新設 ・内容：町内福祉委員会が開催し、子どもや子育て世代が参加するサロン活動（定期的に月に1回程度開催）に対して、上限を3万円として補助金を交付 ・実績：実績：13サロン（14町内福祉委員会） 金額：390,000円 ・結果：子育て世代同士の情報交換や多世代での交流を促進					
C	施策の進捗度		A	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
	令和6年度	実績から見てきた課題	各助成事業が町内福祉委員会の支援につながっているのか、活用状況を把握する必要があります。					
		課題解決のために 行う方策 (改善点)	各助成事業が適切に活用されているか、助成した活動の状況を注視していきます。					
A								

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		4	資金・組織体制の充実支援			担当課	社会福祉協議会
基本施策		(1)	補助金など活動資金面の支援				
取組名No		6	ボランティア活動支援のための助成実施				
P	取組内容		ボランティア活動の活性化や活動者の資質向上及び増員のための助成、ボランティア活動を行うために必要な備品購入費用の助成を行います。				
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		新規取組のため前年度に定めた方策はありません。				
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10
	実績／ 上段：例年実施していること 下段：関連・新たな動きや成果		<活動活性化応援助成> ・制度見直し 申請要件：ボランティアセンター登録後3年以上の活動実績のある団体 →登録年数制限を撤廃 ・交付件数：R5：0件→R6：5件 <活動備品等助成> ・制度見直し 申請要件：ボランティアセンター登録後3年以上の活動実績のある団体 →登録後1年以上 ・交付件数：8団体 <研修助成> 交付件数：3団体				
C	施策の進捗度		A				
			取組内容は実施でき、効果があった	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、効果があった B：取組内容は実施できたが、効果がなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要			
A	令和6年度	実績から見てきた課題	助成要件を緩和したことで、団体が申請しやすい助成になりました。				
		課題解決のために行う方策 (改善点)	引き続き、現在の助成要件を継続し、活動者が活用しやすい助成制度を提案します。				

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		4	資金・組織体制の充実支援				担当課	市民協働課
基本施策		(2)	団体の組織基盤整備に関する支援					
取組名No		1	スキルアップ講座の開催					
P	取組内容		地域団体や市民活動団体のメンバーのスキルアップや組織経営能力の向上を目指し、時代やニーズに応じた、ICTスキルの向上、ファシリテーションなどに関する講座や、財務処理やNPO法人設立の方法など団体の組織基盤を向上させるための講座を開催します。					
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		ニーズに応じた講座を開催できるよう、ニーズの把握に努めます。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 上段：例年実施していること		<スキルアップ講座>（市民交流センター） ・講座数：3 ・内容：資金調達のための説明会、コミュニケーション勉強会、市民活動情報サイト操作方法説明会 ・参加者：計50名					
D	下段：関連・新たな動きや成果		ファシリテーションのスキルアップ講座の開催（場リスタ講座 はじめの一步～あなたも場づくりマスターに～）（R5～6） ・内容：市民活動をする上でだけでなく仕事やプライベートにも活かせるスキルアップ講座 ・参加者：市民活動という言葉を前面に出さずに開催したため、年代・職業等多様な方が集まった ・結果：「仕事で活かしたい」「市民活動を始めてみたい」という声があり大変好評だった					
	施策の進捗度		B 取組内容は実施できたが課題が解決できなかった	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
A	令和6年度	実績から見えてきた課題	単なるスキルアップでは人が集まりにくい傾向があります。講座に参加することでしか身につけることのできない対人スキルなど、汎用性の高いものに対するニーズが高いように感じます。					
	令和6年度	課題解決のために行う方策 （改善点）	引き続きニーズの把握に努めます。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		4	資金・組織体制の充実支援				担当課		市民協働課	
基本施策		(2)	団体の組織基盤整備に関する支援							
取組名 No		2	市民活動団体運営支援							
P	取組内容		団体が持続的に発展していくために、相談・コーディネートなど伴走支援等により団体の支援をします。							
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		引き続きファンドレイジングなどの寄附に関する事業を続けていきます。							
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10			
	実績／ 上段：例年実施していること		・伴走的支援：日頃から団体のステージやニーズに応じて情報提供・相談 ・ファンドレイジング：市民交流センターまつり「わくわくフェスティバル」においては参加者が頑張っている団体に投票をし、その投票数に応じてバザーでの売上金を団体に分配 ・フードドライブ：年に2回開催し、子ども食堂を開催している団体へ寄附							
C	下段：関連・新たな動きや成果									
	施策の進捗度		A							
A	令和6年度	実績から見てきた課題	高齡化などの問題も深刻さを増してきており、団体の支援方法に工夫が必要です。							
		課題解決のために行う方策 (改善点)	団体に寄り添いニーズの把握に努めます。							

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		4	資金・組織体制の充実支援				担当課	市民協働課（地域振興係）
基本施策		(2)	団体の組織基盤整備に関する支援					
取組名 No		3	町内会運営支援					
P	取組内容		町内会の円滑な運営や事務の効率化を図るため、町内会長や役員として必要な知識や情報、運営ノウハウ（ICTスキル）等を習得するための研修や情報提供を行います。					
	課題解決のために行う 令和 6 年度の方策		町内会長連協の事業として、新人町内会長向けの研修を予定・実施します。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 上段：例年実施していること		町内会関係者向けのパソコン研修を実施 ・目的：パソコン技能の向上により町内会事務の効率化と活性化を図るため ・対象：町内会に関係する方（公民館、福祉委員会、子ども会等の関係者も可） ・出席人数：29人					
	下段：関連・新たな動きや成果		新たな研修として町内会長研修（6月）を実施 ・内容：補助金に関することを中心に、町内会から市の各部署へ提出いただく書類や各種制度などについて案内 ・主な対象：新しく町内会長や役員となった人 ・出席人数：37人					
C	施策の進捗度		A 取組内容は実施でき、課題が解決できた	達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
	令和 6 年度	実績から見えてきた課題	町内会長の交代頻度は町内会によって異なり、毎年交代する場合もあるので、毎年継続して研修を実施する必要があります。 研修内容について、より町内会長が知っておきたい制度や事業内容に更新していきます。					
A	令和 6 年度	課題解決のために行う方策 （改善点）	引き続き町内会長研修及びパソコン研修を年間事業の一つとして実施するほか、町内会運営により役立つ内容に更新していきます。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		4	資金・組織体制の充実支援				担当課		社会福祉協議会	
基本施策		(2)	団体の組織基盤整備に関する支援							
取組名No		4	ボランティア養成講座の開催							
P	取組内容		ボランティア団体を活性化し、継続的な活動のために、技術ボランティアや福祉学習の講師団体をサポートするボランティアの養成講座、ボランティア活動の機会づくりや意欲向上につながる講座を開催します。							
	課題解決のために行う 令和6年度の方策		新規取組のため前年度に定めた方策はありません。							
D	年度		R6		R7	R8	R9	R10		
	実績／ 上段：例年実施していること		＜技術ボランティア講座＞ 技術取得に時間を要する音訳、点訳、文字支援講座を1年ごとに交代で実施 ボランティア活動を検討している人向けの講座（点訳、福祉学習サポーター）を開催							
			＜インスタグラム講座＞ 目的：ボランティア活動者の情報発信を支援（R5はLINE講座） 開催状況：2日間開催し満席となり、関心の高さを感じられた							
			＜情報交換＆交流会＞ 目的：安城市ボランティアセンターに登録している個人ボランティア同士が互いの悩みや新たなアイデアを共有 参加者：10人 結果：各々これまでの活動を紹介、情報交換を実施							
C	施策の進捗度		A							
			取組内容は実施でき、効果があった		達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、成果があった B：取組内容は実施できたが、効果がなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
	令和6年度	実績から見てきた課題	高齢の参加者が多く、パソコンやスマホなどの機器の活用を苦手とする活動者が多いです。							
課題解決のために行う方策 (改善点)		引き続き、IT推進講座では高齢者をはじめ、どの世代の活動者にもわかりやすい講座内容を工夫し、活動者の意欲向上につながるよう努めます。								